

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市「人・農地プラン」検討会
2 開催日時	令和4年2月24日(木) ①午後1時30分から ②午後2時30分から ③午後3時30分から
3 開催場所	河内長野市役所 7階 行政委員会室
4 会議の概要	(1) 石見川地区「人・農地プラン」について (2) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、最小限の人数で開催するため、傍聴不可とする。
6 傍聴人数	—
7 問い合わせ先	環境経済部 農林課 農政・土地改良係 (内線 472)
8 その他	本件は、6名の委員を3グループ(2名ずつ)に分け、委員を分散して開催し、書面により審議を行なうもの。 事務局は、説明員等、最小限の人数で開催。

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

河内長野市「人・農地プラン」検討会議事録

1 日 時 令和4年2月24日（木）午後1時30分から午後4時30分まで

2 場 所 河内長野市役所 7階 行政委員会室

3 総会の成立

6名の委員を3グループ（2名ずつ）に分け、委員を分散して開催し、事務局より説明の上、書面により審議を行った。

（河内長野市「人・農地プラン」検討会）委員数6名、出席6名、委任状0名、運営規程第5条の規定により、会議定足数を満たし会議が成立した。

出席委員

- ① 河内長野市農事組合連合会 会長 南端 輝治 （午後1時30分から）
- ② 大阪南農業共同組合 営農指導課長 野本 剛久 （午後1時30分から）
- ③ 大阪府「農の匠」 門林 秀昭 （午後2時30分から）
- ④ 大阪府「農の匠」 増田 光代 （午後2時30分から）
- ⑤ 河内長野市農業委員会 会長 中谷 勉 （午後3時30分から）
- ⑥ 大阪版認定農業者 新谷 直美 （午後3時30分から）

4 案件

- (1) 議案第1号 石見川地区「人・農地プラン」について
- (2) その他

5 議事の経過の概要及びその結果

- ・案件（1）について事務局より説明。出席委員（6名）のうち、賛成6名、反対0名、運営規程第5条第3項の規定により承認された。
- ・案件（2）については、特になし。

以上の会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年2月24日

会 長 河内長野市農事組合連合会 会長

南端 輝治

議事録署名人 河内長野市農業委員会 会長

中谷 勉

議事録署名人 大阪版認定農業者

新谷 直美

## 人・農地プラン検討会（石見川地区）

1. 日時 : 令和4年2月24日（木）午後1時30分から午後4時30分まで
2. 場所 : 河内長野市役所 7階 行政委員会室
3. 出席委員 : 6名の委員を3グループ（2名ずつ）に分け、委員を分散して開催し、事務局より説明の上、書面により審議を行った。

### 【1回目】（午後1時30分から）

- ①河内長野市農事組合連合会 会長 南端 輝治
- ②大阪南農業共同組合 営農指導課長 野本 剛久

### 【2回目】（午後2時30分から）

- ③大阪府「農の匠」 門林 秀昭
- ④大阪府「農の匠」 増田 光代

### 【3回目】（午後3時35分から）

- ⑤河内長野市農業委員会 会長 中谷 勉
- ⑥大阪版認定農業者 新谷 直美

## 4. 議案第1号にかかる主な意見【1回目】

- 南端会長 : 石見川地区においては、日照時間も短く、耕作条件も決して良くない。基盤整備は行わないのか。
- 市 : 平成15年頃から5年程度掛けて、川沿いの農地（3～4ha）を中心に基盤整備済みである。
- 南端会長 : 水稻にこだわらず、まずは「農地の条件に適した作物」を作ることが望ましいと思う。
- 南端会長 : 個々の農地面積が狭く、耕作面積が拡大できるような農地集約が必要である。
- 南端会長 : 林業の衰退により、木が生い茂り、農地の日照時間が短くなってきている。
- 市 : 民有林についても、行政が介入し、所有者の意向を聞きながら、森林整備を進めていく予定である（事業完了まで15年程度かかる）。
- 南端会長 : 自然、行者湧水という地元の資源を活かし、ジビエ、山菜取りなど観光事業を含めた展開を考えてみてはどうか。
- 南端会長 : 他の地域も同様の課題を抱えているので、本プランは、他の地域の良き手本となると思う。

野本委員 : 冷涼な気候を活かし、出荷時期を意図的にずらした作物を作り、他の地域と差別化を図ってはどうか。

#### 5. 議案第1号にかかる主な意見【2回目】

門林委員 : 石見川地区は、基盤整備は行わないのか。

市 : 平成15年頃から5年程度掛けて、川沿いの農地(3~4ha)を中心に基盤整備済みである。

門林委員 : 大規模な活性化は難しいと思うが、基盤整備を活かし、担い手への農地集約を進め、少しでも活性化できれば良いと思う。

門林委員 : 行者湧水にはどのような利用客が来るのか。

市 : 特に市外からの利用客、とりわけ、都心部からの利用客が多い。

門林委員 : 行者湧水という地元の資源を活かし、観光事業を含めた体験事業など、様々な展開を考えてみてはどうか。

門林委員 : 石見川地区も高齢化が顕著に進んでいる。

#### 6. 議案第1号にかかる主な意見【3回目】

中谷委員 : 「行者湧水直売所」という拠点があるので、活用していくべきである。

中谷委員 : 冷涼な気候を活かし、出荷時期を意図的にずらした作物を作り、他の地域と差別化を図ってはどうか。市で営農指導のサポートをしてみてもどうか。

市 : 直近では、8月に本プラン作成にかかるアンケートを実施した際、「秋ジャガ」の促成栽培講習会を行った。これまでも、営農指導員が現地で積極的な指導を行っている。

新谷委員 : 空き家を活用し、若手農家を呼び込む展開を。

中谷委員 : 本市は、農業委員会の「利用集積支援制度」により、農地貸付けの下限面積が1反であり、他の市町村よりも条件が緩和されているため、「農家になりやすい河内長野市」をPRしてはどうか。

以上